

# 珠姫の物語

過去へ進む 未来へ戻る



## 0 / プロローグ

慶長4年（1599）6月11日。徳川家康の孫として、珠姫はこの世に生を受けた。

父は徳川秀忠、母は織田信長の姪である江姫。

全国の大名を抑えていた前田利家が亡くなり、家康は天下取りの野望を叶えるべく動き出す。

前田家は謀反を疑われ、利家の正室まつが人質として、江戸に向かうことが決まった。

関ヶ原の戦いが近づくなか、珠姫の人生も動き始めた。

model : 木鳩

craft : 加賀手毬 毬屋



## 1 / 江戸城の珠姫

父と母からの愛を一身に受け、江戸城で遊ぶ珠姫。すぐにここから旅立ち、二度と帰ってくることはないとも知らずに。

珠姫は遊び道具として、手毬を多く金沢へ持ってきた。現代でも加賀手毬として伝わっている。

model : 木鳩

craft : 加賀手毬 毬屋

location : 石川県西田幾多郎記念哲学館





## 2 / 平和の証と重み

加賀百万石の大名・前田家に嫁ぐことになった珠姫。

夫は、私を愛してくれるだろうか。

金沢は、私を愛してくれるだろうか。

私は、夫を愛することができるのだろうか。

関ヶ原の戦いは、徳川家康が勝利した。

家康に味方した前田利長は百万石を得る。

その代償として、珠姫と利長の後継者利常との婚約が決定したのである。

model : 木鳩

craft : 加賀手毬 毬屋

location : 石川県西田幾多郎記念哲学館





### 3 / 私は幸せでないといけない

愛する人を、自分で決めることはできない。  
徳川家の娘であれば当然のこと。  
でも、私は夫を愛さなくてはならない。  
幸せにならなくてはいけない。  
私には、織田家の血が流れている。  
だからきっと、私は愛することができるはず。  
幸せになることができるはずだ。

ここは牢獄でしょうか。いえ、ここは私が幸せに暮らす場所

書：tae awakura

切り絵：坂下奈美



## 4 / 人質交換 ～交差する江戸・金沢～

毅然とした姿で江戸に向かう、まつ。

愛する息子たちから離れ、一人で江戸に向かうことは心細い。家族にはもう二度と会えないかもしれない。しかし、秘めた心のうちを見せることはなく、堂々と珠姫の横を通り過ぎる。珠姫はただただ、その潔さに圧倒される。

実際、まつが江戸へ旅立ったのは、珠姫が金沢にやってくる一年前のことであった。

まつのは髪は松の木、珠姫の髪は桐の花がモチーフになっている。桐の花は、織田信長の肖像画に用いられている家紋が五三桐であることによる。

model : 木鳩、JJ Rohita

craft : つまみ細工 - 番匠裕美

hairmake : YURIE

location : 成巽閣





## 5 / 金沢城でのお出迎え

江戸からの長い旅が終わった。

まるで夢のような時間。

とうとう紅葉で彩られた金沢城に着いた。

私を出迎えるべく、門の前に並んだ灯りが私の行く道を示してくれている。

うん。きっと私は大丈夫。

提灯台：：アールテクノ（株）

提灯 rogo：谷田和希

提灯透写：松田和傘店

location：鼠多門





## 6 / 仮面をはずす覚悟

幸せになるためには、自分を捨てなくてはならない。  
そう、思っていた。

捨てなくてもいいのかもしれない。  
私は、私でいられるのかもしれない。  
仮面をはずしてもいいのかもしれない。

model：木鳩

craft：輪島の漆-YUKAKU



## 7 / 宴

珠姫を迎えた金沢城では、かぶき者の前田家にふさわしい、とびきり派手な宴が行われる。

珠姫は心から宴を楽しみ、金沢に愛され迎え入れられたことを実感するのだった。

養父の前田利長は、珠姫のために配下の武士たちを踊らせ、自身は鼓を打った。

夫の利常は、京・大坂から役者を呼び寄せ、女歌舞伎や人形浄瑠璃・踊り・芝居などを金沢城下で華やかに行わせたのである。

model：ハツ葉 UMEBACHI

craft：金沢金箔

location：珠姫の寺 天徳院



## 8 / ゴースト

織田家の女性はみな、たとえ夫が誰であろうとも、狂おしいまでに深く愛してきた。

お祖母様も、伯母様も、お母様もみんなそう。

その系譜に今、私も連なるのだ。

信長の妹・お市の方は、最初の夫の浅井長政を兄に殺された。再婚相手の柴田勝家は、豊臣秀吉に敗北したため夫と共に自害している。

娘の茶々は母を殺した秀吉と結婚し、徳川家に嫁いだ妹の江と大坂の陣で敵対することになる。

織田家の女性は時代に翻弄され、家族が敵味方になろうとも、心から夫を愛し、死んでいった。

model : 木鳩





9 /

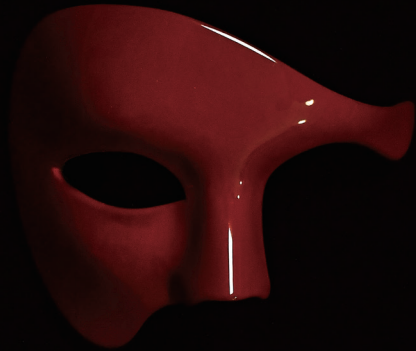
## やっぱり、私は幸せになるみたいだ

私には、織田の血が流れている。  
だから、たとえ夫が誰だって愛してみせる。  
私にできないわけがない。

金沢までやってきた。

やっぱり、私は幸せになるみたいだ。

craft : 加賀手毬  
切り絵 : 坂下 奈美



## 10 / ペルソナ

もう能面は必要ない。

ありのままの自分で生きていく。

これからの金沢での人生には、様々なできごとが待っているだろう。

でも、夫と二人。

乗り越えて行けるはずだ。

珠姫と利常の間には、3男・5女が生まれ、夫婦仲は仲睦まじいものだったという。しかし、5女・夏姫を産んだ後、珠姫は体調を崩し、帰らぬ人となった。

24歳のことであった。

craft : 輪島の漆